

北海道中央労災病院 災害支援救護班活動報告

薬剤師 山田雄二

○活動内容

派遣期間：平成23年5月4日～7日

派遣地域：宮城県仙台市若林地区

○被災地の様子および感想

震災から約二か月が経過する活動地域では、避難所の無料巡回バスなども開始され、インフラはほぼ正常化し、市内の医療体制も回復している。

各避難所には、全国から来ている保健師が常駐し、医療チームは日中、保健師からの依頼を受けた各避難所を巡回診療する（運動療法も一緒に巡回し、前任チームからの申し送り対象者の運動実施の継続等を行う）という業務が中心となりました。避難所に避難されている方は、仕事や家の片づけに行かれて日中は少人数しかいない状態でした。今後は地元での巡回診療や受診が可能となると思われます。

薬剤師としての活動では、処方薬剤の提案（在庫のある薬剤から、医師が求める薬剤の提案を行う）、診察後の薬剤交付、処方薬剤の内容説明、お薬手帳持参者への記載、併用薬剤のチェック、薬剤管理（残薬の在庫確認、使用薬剤の記録）等を行った。今までの医療派遣チームの情報から当院から薬剤は持ち込まず、在庫薬にて対応しました（最終的に医療材料、医薬品ともに過剰な状態）。前チームから引き継いだ「薬剤在庫一覧（薬効別）」により、スムーズな処方提案、在庫管理および調剤が可能で処方検討の時間短縮に非常に有効でした。苦勞されて作成された方々に感謝いたします。また、各避難所に配置薬があり、保健師から確認の要望がありましたが、現状を踏まえ、市販薬で第2種医薬品以上は避難所から撤収してもらうようお願いしました。

避難所の様子としましては、各避難所間で環境の違いが多少見受けられ、今後避難所生活が長期化する場合、感染症等を流行させないための環境整備、衛生面の保持、および、今後の生活不安や苛立ちなど、避難されている方々の精神的な面についても長期的にケアをおこなうことが重要であると思われます。